

令和2年度

栃西中だより

第6号

R3.1.22 発行

文責：小林勇夫



学校教育目標

- 進んで学ぶ生徒 (自主)
- 最後までがんばる生徒 (根性)
- 人のためにつくす生徒 (奉仕)

スローガン： やる気 笑顔 感謝

〔第3学期始業式〕

1月8日(金)に、感染予防のためライブ配信により始業式を実施しました。生徒は各教室のテレビ映像により式に臨みました。生徒への話の内容は下記とおりです。

今年の目標は、「和顔愛語」を意識することです。校長室に、この言葉の書が掲げられています。「和顔愛語」とは、「穏やかなやわらかな笑顔で、親愛の気持ちのこもったやさしい言葉で人と接する。」ことです。いつも穏やかな顔でいれば、心も穏やかになります。そこで、大切なことは、思いやりです。周りにいたわりの言葉をかけていれば、自然と心が優しくなります。自分も相手も、分け隔てなく互いに思いやる心があれば、みんなが明るく幸せになることでしょう。

また、新型コロナウイルス感染者や医療関係者への偏見や差別を防ごうと訴える「シトラスリボン運動」を紹介します。この運動に賛同する人は、右の写真のように、柑橘系色のリボンやひもを三つの輪(「地域」「家庭」「職場(学校)」)に結び、身に着けたり、玄関などに掲示したりします。ですから、このシトラスリボンを身に着けることによって、「私は、新型コロナウイルス感染症に罹った人や濃厚接触者はもちろん、保健所に勤めている人、病院などのお医者さんや看護師さん、事務の方など感染症対策に携わっている方々に対して、絶対に差別をしない。応援している。」という意思表示になります。ボランティア部の生徒が、西中生全員に配れるように、このシトラスリボンを作ってくれました。本日、配布します。

現在、新型コロナウイルス感染が拡大しています。引き続き、新しい生活様式を実践し予防に努めながら、楽しく有意義な3学期となることを期待します。



〔生徒会新役員〕

12月2日(水)に生徒会役員選挙立会演説会を行いました。1年生11名、2年生6名が立候補をしました。感染予防のためライブ配信での立会演説会でしたが、立候補した生徒それぞれが、西中をより良い学校にするための公約を立派に発表しました。その後の投票の結果、右の新役員に決定しました。これからの活躍を期待します。



令和3年度 生徒会本部役員

- 会長 黒崎海星さん(2-1)
- 副会長 寺内菜々海さん(2-2)
- 神山大弥さん(2-4)
- 堀江花緒さん(1-1)
- 書記 角田祐良さん(2-4)
- 吉田千桜さん(1-2)
- 会計 飯塚咲希さん(2-3)
- 議長団 平石桃華さん(2-4)
- 鈴木一颯さん(1-5)

新生徒会長あいさつ

栃木西中学校第74代生徒会長 黒崎海星

生徒会長に選ばれた時、「これからは西中生徒会を自分が引っ張っていかなくては」という思いを強くもちました。

私は明るく活気のある学校にしたいと思っています。それにはまず、あいさつ。あいさつにはコロナ禍による暗い雰囲気をも明るくする力があると思います。率先してあいさつを行い、互いに声をかけやすい環境をつくっていきます。皆さん、一緒に頑張りましょう。

やる気
笑顔
感謝

〔小さな親切運動 作文コンクール〕 全国中央本部の審査において、2年連続 優秀賞 を受賞した、
 新村日奈子さん(3-3)の作品を紹介します。心が、ほっこりしますね。

甘い夏の思い出

栃木市立栃木西中学校 三年 新村日奈子

「いってきまーす。」

去年の夏、私は車から飛び降り、市内の夏祭りに行った。そして、大好きな綿あめ屋さんの列に並んだ。いちご味、レモン味、メロン味の看板があった。どれもおいしそうだけど、すぐに決まった。いちご味だ。私は小さい頃からいちごが大好きなので、赤くて甘い「いちご」を想像するだけで、口の中が甘く幸せな気分になる。

「いちご味を下さい。」

と、言うと、店員さんが、

「あとちょっとだけしかないから、少し小さくなっちゃうけどいい？」

と聞いてきた。

そのとき、すぐ後ろで小さな女の子の声が出た。

「私、いちご味がいい。」

私は思わず、店員さんに聞いた。

「いちご味は、これが最後ですか？」

店員さんは「最後の一つ」と言ったので、後ろを振り向いた。

おばあさんは、女の子に、

「いちご味はもうないんだよ。違う味を選ぼうね。」

と言うと、女の子は、おばあさんの服をつかんで、

「いちご味じゃなきゃ、やだ。」

と眉間にしわを寄せ、体を振りながら泣きそうな顔をしていた。すると、おばあさんは「もうない

んだよ。」と、つらそうな顔で女の子をなだめた。店員さんが最後のいちご味の綿あめを差し出した。

そのとき、私は自然と体が動いた。あめを受け取り、後ろの女の子に渡した。

「お姉ちゃん、ありがとう。」

と、女の子は笑顔で言った。

「どういたしまして。」

と、私も笑顔で言葉を返すと、おばあさんが

「本当にありがとう。孫は横浜から来ているから、

長い休みの時しか会えないの。だから少しでも良い思い出を作らせてあげたかったの。あなたのおかげで、この子も嬉しいお祭りが心に残ったと思うわ。本当にありがとう。」

と、私の手を握りしめながら、何度もおじぎをして立ち去った。

笑顔のおばあさんと手をつないで、うれしそうにぴよんぴよん飛び跳ねている女の子を見て、いちご味の綿あめをゆずって本当に良かったと思った。立ち去る女の子とおばあさんは、何度も振り返っておじぎをして、手を振って別れた。私には、

今でもそのときのおばあさん手のぬくもりが残っている。あの日の出来事を思い出すと、あたたかい気持ちが入り込めてくる。私は小さな親切でおばあさんから大きなやさしい気持ちをもらった気がする。



〔世界から学ぶ〕

1年生を対象に、国際理解教育の一環として11月27日(金)に実施しました。国際交流協会にご協力をいただき、世界8カ国(フィリピン・中国・韓国・ベトナム・ネパール・スリランカ・タイ・ブラジル)の方をお招きして、それぞれの国の文化や習慣などについてお話をいただきました。



〔専門高校「出前授業」〕

2年生を対象に、進路学習の一環として12月4日(金)に実施しました。県立栃木農業高校・栃木商業高校・栃木工業高校の3校7学科の先生・生徒においでいただき、高校で学ぶ内容について、実習などを交えながら教えていただきました。

